

TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル2023
Summer Lecture in 2023 for Nanoscience/Nanotechnology黒田 眞司 教授
筑波大学数理物質系

本年も大阪大学の協力を得て筑波大学・大阪大学同時開催として Summer Lecture in 2023 for Nanoscience/Nanotechnologyが7月18日から8月2日の日程で開催されました。運営・実施をされました黒田眞司教授(筑波大学数理物質系)にお話を伺いました。

昨年に引き続き今年度も海外で第一線で活躍している大学教員・研究者を招聘してサマーレクチャー「ナノテクノロジー特別講義I, II, III」を大阪大学エマージングサイエンスデザインR³センターとの共同事業として開催しました。今年度は、大阪大学側は2コマ、筑波大学側は1コマを担当することとして開催されました。各講義等の詳細は次の通りです。

●「ナノテクノロジー特別講義I」(阪大)

講師: Dr. Michel Silwa (CNRS Research Director, Univ. Lille, France)

題目: Light & Nanoscience: Fabrication, Manipulation and Characterization

●「ナノテクノロジー特別講義II」(阪大)

講師: Prof. Marie D'angelo (Institute for NanoSciences of Paris, Sorbonne University, France)

題目: Introduction to Photoelectron Spectroscopy and Synchrotron Radiation

●「ナノテクノロジー特別講義III」(筑波大)

講師: Dr. Jacek Kasprzak (Institut Néel CNRS Grenoble, France)

題目: Opto-electronics of semiconductor nanostructures: from fundamentals to modern spectroscopy

今年度は、奇しくも「ナノテクノロジー特別講義I, II, III」すべての講義がフランスの大学教員・研究者により講義されることとなりました。大阪大学側の「ナノテクノロジー特別講義I, II」は、録画された動画の視聴(オンデマンド)とリアルタイムのオンライン配信という形式で、筑波大学側の「ナノテクノロジー特別講義III」は、対面で開講(大阪大学にはオンライン中継)し、実施しました。

筑波大学側で開講しました「ナノテクノロジー特別講義III」について報告いたします。サマーレクチャーの筑波大学側の講義は、7年続けてグルノーブルの教員・研究者により講義がされています。今年度のKasprzak氏は初めての担当となります。講義の内容は、固体物理の基礎から始まり、半導体ナノ構造、2次元物質の説明に進み、最後は同氏の専門である超高速・非線形分光による物質のコヒーレンスの研究の紹介に及びました。さらに最終試験として、受講生がそれぞれの研究テーマに応じて割り当てられた学術論文を紹介するプレゼンが行われ、10日間に亘った講義が締めくくられました。

本講義の受講者は筑波大学側11名、大阪大学側2名の計13名(うち留学生10名)で、本講義の内容とは異なる専門の受講生もいましたが、事後のアンケートでは当該学生を含め一流の研究者による最先端の研究紹介も含む内容を興味を持って聴講した様子で、概ね好評という結果でした。



ナノテクノロジー特別講義IIIの講義風景



講師と受講者の集合写真

期間	2023年7月18日(火)~8月2日(水)
会場	オンライン(ライブ)、対面講義及びオンデマンド録画講義の視聴と最終テスト
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究群、大阪大学エマージングサイエンスデザインR ³ センター
構成	3講義、各7~8コマ(+1コマ最終試験あり)
参加者数	13名(大学院生13名、社会人0名) ※3講義合計

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <https://tia-edu.jp>